

各キャンパス図書館めぐり



対話型生成 AI の時代と図書館サービス

工学部情報学科 教授 田中 一基

近畿大学工学部図書館は、学生と研究者の皆さまの学習と研究をサポートするために、さまざまなリソースとサービスを提供しています。新たな学期が始まるにあたり、以下の情報をお知らせいたします。

【新着図書のご案内】

最新の専門書から一般書まで、工学部のカリキュラムや研究テーマに合わせた幅広い図書を取り揃えております。常に最新情報を提供することで、皆さまの学びと研究をサポートします。

【デジタルコンテンツの提供】

近畿大学工学部図書館では、…

ここまでお読み下さった皆さま、大変失礼いたしました。実は上記の文章は、ChatGPTに「近畿大学図書館館報に近畿大学工学部図書館が載せる適切な文章を考えてください」とリクエストして、得られた回答の一部です（2023年8月）。問題のない平易な文章であり、香散見草への寄稿を求められた今年の6月に試したときと比べると、今回は「新たな学期が始まるにあたり」というフレーズが挿入されるなど、リニューアルされていました。しかし「大学生に読んでもらいたい日本語の本を三冊推薦してください」とのリクエストでは、返ってきた三冊のうち、著者名の誤りが一つありました。ハルシネーション（幻覚）と呼ばれる現象であり、ChatGPTに限らず統計的機械学習という方法で学習したAIの問題点の一つです。ChatGPTなど大規模言語モデルに基づく対話型生成AIが注目され始めてから、広く知られるようになりました。

昨年度あたりから対話型生成AIに関する書物が続々と発刊されており、ほとんどが問題点を踏まえながらも活用法や社会へのインパクトを述べているようです。また、デジタル庁などの省庁や大手企業を中心に、業務に対話型生成AIを利用していく方針が発表されています。Preferred Networks, Inc.の岡野原大輔氏は対話型生成AIについて、「世界中の情報に精通しており、誰よりも博識で、どんな話題でも扱うことができる」けれど、「ときにはほとんどでない勘違い」をしてしまう「ちょっと変わった『人』」として付き合うのはどうだろうか」と述べています[1]。スマートフォンが一人一台の情報デバイスになったように、個々人が業務だけでなく生活全般で対話型生成AIをパートナーとする時代が来るでしょう。参考文献の紹介や、要約してもらうことも可能です。図書館サービスは何ができて、どうあるべきかについて、見直すときが近づいていると思います。

参考文献

[1] 岡野原大輔, 大規模言語モデルは新たな知能か, 岩波書店, 2023.